



株式会社シャルレ
<http://www.charle.co.jp/>



株主のみなさまへ
第48期 報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

株式会社シャルレ 証券コード 9885



株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援、ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第48期連結会計年度における報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により制限されていた社会経済活動が徐々に正常化に向かう一方、長引く世界情勢の混乱を背景としたエネルギー資源や原材料価格の高騰によるインフレ圧力が高まり、国内経済におきましても引き続き先行き不透明な状況が続いております。

このような中、レディースインナー等販売事業におきましては、新型コロナウイルス感染症対策の制限緩和を背景に、訪問販売業の活動環境が改善されつつありますが、当連結会計年度におきましては、前連結会計年度に実施した衣料品の値引販売が売上に大きく貢献していたこと、発売2年目を迎えたシャワーヘッドの販売が減少したこと等により、減収となりました。

利益面では人員構成の是正を目的とした希望退職者募集の実施及び子会社の事業再編等により特別損失を計上いたしました。

一方でウルトラファインバブル技術製品等製造販売事業におきましては、前連結会計年度まで活況であったウルトラファインバブル市場での、新規参入事業者の増加及び価格競争の激化により主力であるシャワーヘッドの売上が落ち込み、経営環境は大きく変化いたしました。

また、当社グループでは、より踏み込んだ事業構造改革を段階的に行い、グループ企業として更なる成長を目指して、2022年4月より5か年の中期経営計画を掲げ、各種事業戦略の実現に向けて推進いたしました。

着実に事業戦略を推し進める中で、当社グループを取り巻く環境の変化や計画の変更等にも柔軟に対応し、中期経営計画の実現化、実行化に向け全力で取り組んでまいります。また、より長期的な視点で、将来に向けての新たな事業戦略についても引き続き検討してまいります。

今後も、業績の回復に向け、グループ企業一丸となって取り組んでまいります。株主のみなさまにおかれましても、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月
株式会社シャルレ
代表取締役社長
林 勝哉



連結財務諸表

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当連結会計年度 2023年3月31日	前連結会計年度 2022年3月31日
(資産の部)		
流動資産	15,025	16,892
固定資産	5,459	5,252
有形固定資産	2,262	2,264
無形固定資産	1,199	1,144
投資その他の資産	1,997	1,843
資産合計	20,485	22,145
(負債の部)		
流動負債	1,896	2,472
固定負債	782	858
負債合計	2,679	3,331
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	3,600	3,600
資本剰余金	4,897	4,897
利益剰余金	9,549	10,416
自己株式	△131	△131
その他の包括利益累計額	△109	31
純資産合計	17,806	18,814
負債純資産合計	20,485	22,145

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当連結会計年度 2022年4月1日 ～2023年3月31日	前連結会計年度 2021年4月1日 ～2022年3月31日
売上高	13,255	15,565
売上原価	6,498	6,854
売上総利益	6,756	8,710
販売費及び一般管理費	6,505	7,006
営業利益	251	1,704
営業外収益	52	26
営業外費用	2	9
経常利益	301	1,720
特別利益	—	14
特別損失	982	2
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△681	1,732
法人税、住民税及び事業税	34	450
法人税等調整額	24	265
当期純利益又は当期純損失(△)	△740	1,016
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△740	1,016

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当連結会計年度 2022年4月1日 ～2023年3月31日	前連結会計年度 2021年4月1日 ～2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△733	3,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,085	△639
財務活動によるキャッシュ・フロー	△193	△225
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,012	2,140
現金及び現金同等物の期首残高	13,235	11,095
現金及び現金同等物の期末残高	11,223	13,235

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

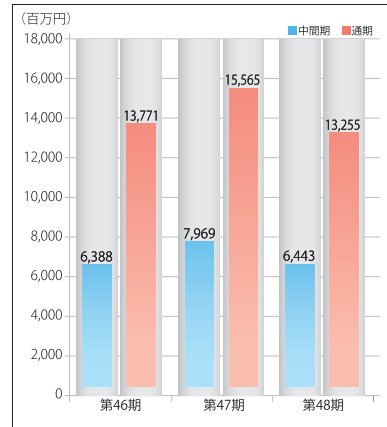
当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ20億12百万円減少し、112億23百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、7億33百万円の支出となりました(前連結会計年度は30億4百万円の収入)。主な要因は、税金等調整前当期純損失6億81百万円、減価償却費及びその他の償却費5億21百万円、未払消費税等の減少2億42百万円、法人税等の支払額5億24百万円であります。投資活動によるキャッシュ・フローは、10億85百万円の支出となりました(同6億39百万円の支出)。主な要因は、定期預金の増加5億1百万円、有形固定資産の取得による支出3億13百万円、無形固定資産の取得による支出3億25百万円であります。

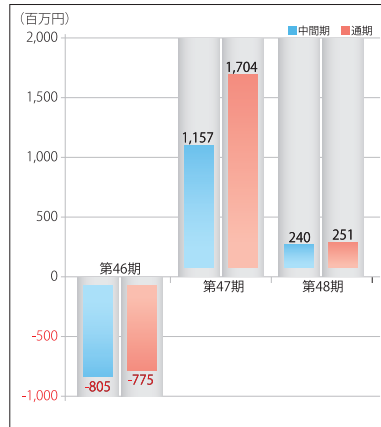
財務活動によるキャッシュ・フローは、1億93百万円の支出となりました(同2億25百万円の支出)。主な要因は、配当金の支払額1億26百万円あります。

連結財務ハイライト

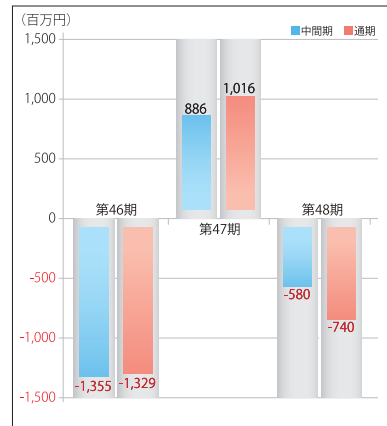
売上高



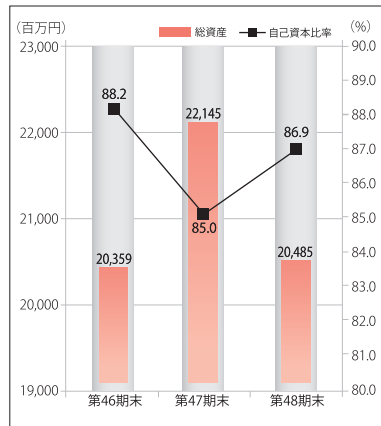
営業利益又は営業損失



親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失



総資産・自己資本比率



決算ポイント

【売上の状況】

第48期売上高につきましては、レディースインナー等販売事業では、前年に続き子会社のシャワーヘッドを販売しましたが、発売2年目となり販売規模が縮小したことが大きく影響し、減収となりました。ウルトラファインバブル技術製品等製造販売事業では、新規参入事業者の増加及び価格競争の激化により、主力製品であるシャワーヘッドの売上高が落ち込み、減収となりました。結果、連結売上高は、132億55百万円(前連結会計年度比14.8%減)となりました。

【営業利益の状況】

第48期利益面につきましては、レディースインナー等販売事業では、希望退職者募集の実施などによる固定費の削減に努めましたが、シャワーヘッドなどの売上の減少額が大きかったことに加え、前年ほどの在庫ロスの低減には至らなかったことにより、減益となりました。ウルトラファインバブル技術製品等製造販売事業では、シャワーヘッドの売上の減少額が大きく影響し、減益となりました。結果、連結営業利益は2億51百万円(同85.3%減)となりました。

【親会社株主に帰属する当期純損失】

レディースインナー等販売事業では、希望退職者募集の実施に伴う特別損失として、7億92百万円、ウルトラファインバブル技術製品等製造販売事業では、株式会社TKSの新設分割及び株式譲渡による特別損失として1億68百万円(減損損失及び事業整理損)を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は7億40百万円(前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純利益10億16百万円)となりました。

※当社グループは、第46期第2四半期連結会計期間より、連結財務諸表を作成しており、第46期連結会計年度に係る連結損益計算書には子会社の業績は6か月分のみが含まれております。

事業報告 (報告セグメント別売上高)

	セグメント 売上構成比/売上高	売上高の推移 (単位:百万円)	48期トピックス
レディースインナー等販売事業	衣料品類	65.4% 8,669 百万円	ファンデーション類や生活関連商材が売上に牽引するも、アウター類の数量限定商品の売上が大幅に減少したため、前年同期比で減少しました。
	化粧品類	14.4% 1,906 百万円	スキンケア類を中心とした既存定番商品の売上が伸び悩んだため、前年同期比で減少しました。
	健康食品類	6.5% 863 百万円	既存定番商品の内、青汁や発酵茶等の販売が低調に推移したため、前年同期比で減少しました。
	その他	4.0% 527 百万円	前年に続き、子会社のシャワーヘッドを販売しましたが、発売2年目となり販売規模が縮小したことにより、売上は大幅に減少し、前年同期比で減少しました。
	製造販売事業	9.7% 1,287 百万円	新規参入事業者の増加及び価格競争の激化により、主力製品であるシャワーヘッドの販売が低調に推移したため、前年同期比で大幅に減少しました。

※当社グループは、第46期第2四半期連結会計期間より、連結財務諸表を作成しており、第46期連結会計年度に係る連結損益計算書(売上高)には子会社の業績は6か月分のみが含まれております。

中期経営計画

中期経営計画の進捗状況

当社グループは、従来の経営戦略の基本骨子に基づく各事業戦略において、より踏み込んだ事業構造改革を段階的に行い、グループ企業として更なる成長を目指して、2022年4月より5か年の中期経営計画(2022年4月~2027年3月期)を掲げ、各種事業戦略の実行推進に向けて積極的に取り組んでおります。

2022年4月より本格的に各事業戦略の検討を開始し、計画の詳細化を進めてまいりました。計画の変更等にも柔軟に対応しながら見直しを行い、引き続き新たな取り組みも検討しております。また、子会社の業績動向なども踏まえ、事業環境の変化に対応するため、経営戦略の一部見直しをいたしました。

今後も引き続き、経済・社会の趨勢や市場動向の変化を注視しつつ、柔軟に対応しながら新たな戦略の追加や見直しは随時行ってまいります。

当社グループの基本戦略及び 今後の戦略の方向性

1. シャルレビジネス事業の再生

- (1) 販売組織の活性化に向けた環境づくり
 - ・シャルレビジネスにおける直受注・直発送(BtoC)モデルの導入
 - ・次世代のビジネスメンバー獲得を目的としたビジネス環境の整備
- (2) ブランド/マーケティング戦略の強化
 - ・企業ブランドの価値向上及び商品ブランドの再編
 - ・フェムケア、フレイル領域などの商品開発・展開
- (3) 働き方改革の推進強化
 - ・多様な働き方(生産性向上)に向けた職場環境づくり
 - ・改革に向けた社内風土づくり
- (4) SDGsへの取り組みの推進強化
 - ・環境問題やジェンダー平等への取り組み
 - ・健康増進企業としての取り組み

2. 新規事業開発による新たな柱の創造

- (1) 子会社の事業運営
 - ・営業体制の強化推進及び新製品の開発
- (2) M&A・提携等による新事業の開発
 - ・国内における第3の柱となる事業の開発
- (3) 新たな海外販売ルートの開拓・展開
 - ・ベトナム・台湾における販路拡大に向けたテスト販売

目標とする当社グループ中期経営指標

2027年3月期を最終年度として、以下の指標を中期経営目標といたします。

グループ中期経営目標(2027年3月期)	
連結売上高	173億円
連結営業利益率	8%以上
連結ROE	5%以上

商品トピックス

主力商品のドウヴァンナシリーズから 期間限定カラー商品を発売しました。

当社の売上の中心である定番商品を強化する為に、48期は主力商品の中でも特に愛用者が多いドウヴァンナシリーズから、人気の高いワインカラーのブラジャーとショーツを2022年9月より順次期間限定で発売いたしました。長年の愛用者にも新しい顧客にも、発売から25年がたつロングセラーであるドウヴァンナシリーズの良さを再確認いただくきっかけの商品として喜ばれています。



ドウヴァンナシリーズ人気の秘密 ~「機能性」と「美しさ」の両立~

■ ドウヴァンナの持つ高い補整力と機能性

構造力学に基づくパターン設計と、身体の動きについてくるのびやかな生地で、肌に心地よくフィット。女性らしいメリハリのあるラインに整えます。

■ 優美なデザイン

バラの花をモチーフにした上質で繊細なレースを贅沢に使用。格別な美しさを演出。

■ 商品展開

ブラジャー
ボディースーツ
ガードル
インナー
ショーツ



■ 色展開 定番5色にワイン(ブラジャー・ショーツのみ)が期間限定で発売中。



ブラック

パープル







ナチュラルブラウン

ショコラ

シェルピンク

シャルレグループのSDGs宣言

シャルレグループは持続可能な社会の実現を目指し、SDGsの取り組みを推進し、17の国際目標のうち以下項目について重点的に取り組みます。

<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	<p>人生100年時代を見据えて、人々の健康維持や快適な暮らしに貢献できる商品や製品の提案を目指します。 また、人々が社会や人とつながる“場”を提供することで豊かな生活を目指します。</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>女性が活躍できる社会を目指すとともに、人々が働きがいのある仕事に取り組みめるよう雇用の増加を目指します。</p>
<p>12 つくる責任、つかう責任</p> 	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>品質のよい商品にこだわり、環境負荷が少なく、安心・安全に配慮したものづくりを目指します。</p>

シャルレ事業におけるSDGs取り組み項目の目標・進捗

3 すべての人に健康と福祉を

人生100年時代を見据えて、人々の健康維持に貢献できる商品の提案を目指します。また、シャルレビジネスを通じて人々が社会や人とつながる“場”を提供することで豊かな生活を目指します。

取り組み	目標項目	2022年実績	2029年目標
(1)健康関連商材の提供	健康関連商材(健康食品・シャルレウエルネス商品)の販促、定期便の利用促進	健康食品売上シェア 6.9%	33.6%
		定期便利用者シェア 18.6%	30.0%
(2)フレイル商材の拡大	フレイル商材の開発・投入	フレイル商材比率 6.1%	12.9%
(3)多様な働き方の推進 ※目標8(働きがい)の観点も含む	残業時間の削減や有給休暇の取得促進による私生活の充実	残業時間数	月平均4.4時間(管理職除く) / 月平均3時間(管理職除く)
		有給休暇取得率(付与日数に対する取得日数比率)	60.7%(2022年4月~2023年2月) / 70.0%
	事業場での就労にとらわれない柔軟な就労体制の確立	テレワークの取得率	15.2%(2022年4月~2023年2月) / 50.0%
	自己の健康状況把握及び改善の推進	健康診断(生活習慣病健診含む)における有所見率	36.6%(2023年2月末まで) / 20.0%

5 ジェンダー平等を実現しよう

女性を元気にする日本一のグループを目指す企業として、学歴や資格に関係なく誰でも始められるシャルレビジネスを提供し、女性経営者を育成し、女性が活躍する社会を目指します。

取り組み	目標項目	2022年実績	2029年目標
(1)女性の労働環境の提供	魅力あるシャルレビジネスの提供	特約店稼働数(月平均) 3.45万人	5.0万人
(2)女性経営者の育成・教育	代理店の育成・教育	代理店育成数(累計) 4,113店	4,300店
(3)女性従業員の活躍推進	女性従業員の多様なキャリア形成の支援による、長く勤務できる環境の整備	女性管理職比率	20.0%(2023年3月現在) / 25.0%
		女性従業員の平均勤続年数	16.2年(2023年3月現在) / 20年
		育児休業取得率	100% / 100%

12 つくる責任、つかう責任

品質のよい商品にこだわり、パッケージを簡素化する等、環境負荷が少なく、安心・安全に配慮したものづくりを目指します。

取り組み	目標項目	2022年実績	2029年目標
(1)環境等に配慮した調達・商品開発	適正なメーカーとの取引強化	新疆綿の利用率低減 非開示	使用率0%
(2)パッケージの簡素化	配送用段ボールの変更	新規段ボール(小サイズ)の導入 非開示	一部導入
(3)シャルレブランド価値の向上	企業及び商品のリブランディングによる、新たな価値・サービスの提供	ブランド認知・好意 2024年スタート	認知・好意

※取り組み内容や目標に関しては事業の方向性や経営計画を鑑み、随時見直し・検討を行ってまいります。

ひょうご・こうべ女性活躍推進企業(ミモザ企業)に認定



株式会社シャルレは、「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業(ミモザ企業)」に認定されました。これは、兵庫県内企業の女性活躍を推進するため、兵庫県と神戸市が共同で2022年に創設した認定制度で、女性活躍や多様な働き方に積極的に取り組む企業等が認定されます。当社は働きやすく働きがいのある環境の実現を目指してまいります。

会社の概要・株式の状況

会社の概要

概要(2023年3月31日現在)

社名 株式会社シャルレ
 本社所在地 神戸市須磨区弥栄台三丁目1番2号
 設立 1975年11月19日
 資本金 36億25万円
 事業内容 レディースインナーを主体とする
 衣料品、化粧品、健康食品等の販売
 社員数 213名

取締役(2023年6月27日現在)

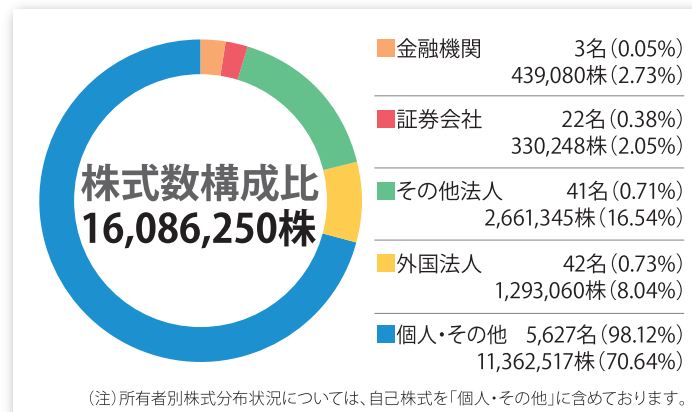
代表取締役社長 …………… 林 勝哉
 取締役 …………… 高畑 則雄
 取締役 …………… 千本松 重雄
 取締役 …………… 濱野 正治
 取締役 …………… 石岡 弘幸
 社外取締役(常勤監査等委員) …………… 吉田 金吾
 社外取締役(監査等委員) …………… 岸本 達司
 社外取締役(監査等委員) …………… 井出 久美
 社外取締役(監査等委員) …………… 茂永 崇

株式の状況

株式の状況(2023年3月31日現在)

発行可能株式総数 84,000,000 株
 発行済株式の総数 16,086,250 株
 株主数 5,735 名

所有者別株式分布状況(2023年3月31日現在)



大株主(2023年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
林 雅晴	1,508,925	9.53
(有) G & L	1,272,432	8.04
(有) Lam's	956,150	6.04
INTERACTIVE BROKERS LLC	927,500	5.86
林 勝哉	843,500	5.33
瀬崎五葉	834,700	5.27
林 宏子	737,699	4.66
林 充孝	517,100	3.27
林 直樹	458,305	2.89
林 達哉	291,000	1.84

(注) 出資比率は、自己株式(250,835株)を控除して計算しております。

株主メモ・株式に関するお手続きについて

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	定時株主総会については3月31日 利益配当金については3月31日 中間配当を行う場合は9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 お問合せ先 0120-094-777(通話料無料)
同連絡先	電子公告 公告掲載 URL https://www.charle.co.jp/company/outline/publicnotice.html (ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載。)
公示の方法	
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
証券コード	9885

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

『コーポレートガバナンス』の内容に関しましては、以下よりご覧いただけます。

【URL】
<https://www.charle.co.jp/corporate/governance/>
 【シャルレホームページ】
 「シャルレホームページ」⇒「企業情報」⇒「コーポレートガバナンス」を選択

株式に関するお手続きについて

特別口座に口座をお持ちの株主様

お手続き・ご照会等の内容	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※)	○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ
お問合せ先	
特別口座管理機関	株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 お問合せ先 0120-094-777(通話料無料)	
手続書類のご請求方法 インターネットによるダウンロード https://www.tr.mufg.jp/daikou/	

(※)特別口座に口座をお持ちの株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式は、お選びいただけません。

証券会社等に口座をお持ちの株主様

お手続き・ご照会等の内容	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	○左記以外の お手続き、ご照会等
お問合せ先	
株主名簿管理人	
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 お問合せ先 0120-094-777(通話料無料)	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。